

平成25年度 学校評価書

松阪市立鎌田中学校

めざす学校像	自ら考え、共に学び、正しく判断し、地域社会に貢献する生徒を育成する	重点目標	(1) 学力の向上 (2) 安心安全な学校生活 (3) 心身の健康 (4) コミュニティ・スクールの推進	
項目	具体的な内容	評価指標（昨年度→達成目標）	達成状況	学校関係者評価
学力向上	① 学習習慣や学力は、定着しているか ② わかりやすい授業になっているか ③ 個に応じた指導をしているか	① 生徒アンケート（肯定的回答 51→70%） NRTの標準得点（47.5→48点） ② 生徒アンケート（肯定的回答 68→75%） ③ 生徒アンケート（肯定的回答 73→75%）	① 家庭学習の習慣（生ア①56%）は、昨年度より向上しているが、目標にはほど遠く、定着に向け小学校や保護者との連携が重要となっている。 ②③ わかりやすい授業づくり（生ア②69%）や個に応じた学習指導（生ア③75%）に努め、全国学力調査（図1）や実力テスト（図2）の結果も伸びているが、じっくり考える力等（図1・3、NRT 47点）に課題がある。	＜学力向上＞ ・学習に対する目標が持っていないのではないかと。 ・今の子どもたちは「悟り世代」と言われている。現代社会が作った夢をもてない悲しい子どもたち、子どもたちに目標を持たせる必要がある。 ・NRTの検査結果でも出ているが、じっくり考える力が劣っている。実際にボランティアで授業を回っていて感じる課題も、子どもたちの集中力やじっと座ってられないというところにある。 ・小学校でも、学力や問題行動が課題となっている。 ・読書ボランティアの活動が充実している小学校では、読書する力が高い。
安心安全	④ 学級が安心して楽しく活発に学べる場となっているか ⑤ いじめや差別を許さない姿勢で指導をしているか ⑥ 交通安全教育や防災教育に努めているか	④ 生徒アンケート（肯定的回答 75→80%） QUの満足群割合（52→55%） ⑤ 生徒アンケート（肯定的回答 86→90%） いじめ事案解消率（100→100%） ⑥ 生徒アンケート 交通安全意識（肯定的回答 92→95%） 防災意識（肯定的回答 79→80%） 安全教室等開催回数（4→5回）	④⑤ 学級づくりの研修を深め、学級充足感（生ア④77%）の向上やいじめの防止（生ア⑤87%）と解消（100%）に努めた。暴力行為は減少（図4）し、QU満足度の全校平均（52%）も全国標準35%に比べ高いが、クラスや学年によるばらつきが大きく（図5・6）、学力定着度への影響が伺える（図1～3） ⑥ 「とまとーず」やスクエア方式による交通安全教室（3回）を関係機関と連携して開催し、交通安全意識（生ア⑥93%）は高まっている。防災訓練（1回）や地域と連携した総合防災訓練（1回）を行い、少しずつ防災意識（生ア⑥73%）も醸成されているが、十分とは言えない。	＜安心安全＞ ・参観したが、スタントマンの実際のリアルな場面を見せたり、体験をさせたりするのは効果的だと感じた。 ・小さいうちからヘルメットをかぶる習慣づけておけば、自然に馴染んでいくのではないかと。 ・集団の中で居心地が悪かったら、自分自身で状況を改善する（何とかする）力を持ってほしい。
健康	⑦ 挨拶や生活習慣は身につけているか ⑧ 生徒の想いに寄り添った教育相談をおこなっているか ⑨ クラブ活動は、心身の成長に役立っているか	⑦ 生徒アンケート あいさつ（肯定的回答 80→85%） 早寝・朝食（肯定的回答 62→70%） 清掃・整理（肯定的回答 78→80%） ⑧ 生徒アンケート（肯定的回答 74→80%） ⑨ 保護者アンケート（肯定的回答 83→85%）	⑦ 日常の挨拶（生ア⑦79%）、早寝早起き朝ご飯の習慣（生ア⑦68%）、清掃整理（生ア⑦77%）など基本的な生活習慣や社会適応能力（図7）について、概ね身につけているが、実態としては十分とは言えない。とりわけ、場に応じた言葉使いなど、人や社会と適切にかかわるスキル（図7）に課題がある。 ⑧ 教職員は、廊下カウンセリングや家庭訪問などにより、相談しやすい関係づくりに努めている（生ア⑧73%、保ア⑧81%） ⑨ 地域貢献活動等により、運動系だけでなく文化系のクラブも活躍する機会が増え、教育的意義（生ア⑨81%、保ア⑨79%）も高まっている。	＜心身の健康＞ ・携帯電話・スマホに関しては、生活習慣や家庭学習の習慣、いじめなど子どもたちへの弊害が大きい。いかに利用を減らすか。親も含めて努力する必要がある。 ・職場体験に中学生に来てもらったが、場に応じた動作ができると思った。ただ、すぐに諦めたり、たくましさに欠けたりする部分も見受けられた。 ・中学校の先生への言葉遣いを聞いて、「それで良いのかな」と感じた。生徒が教師に寄り添う関係も良いが、メリハリも必要に思う。
地域連携	⑩ 校区の学校（園）との連携などにより、保護者の信頼を得ているか ⑪ 地域との連携や学校支援ボランティアの活動は充実しているか ⑫ 学校の現状公開に努めているか	⑩ 保護者アンケート（肯定的回答 60→65%） 連携校入学率（89→90%） ⑪ 保護者アンケート（肯定的回答 65→70%） ボランティア登録者数（48→50人） ⑫ 保護者アンケート（肯定的回答 85→90%） 学校メール発信回数（85→90回）	⑩ 校区内の幼小中の連携（保ア⑩71%）も進みつつあるが、保護者の信託（連携校入学率88%、図8）が回復しつつある。 ⑪ コミュニティ・スクールが本格導入され、学校支援ボランティア（60名）によるサポートなど、地域との連携（保ア⑪71%）体制が構築されてきている。 ⑫ 学年通信（約40号）やCS日より、学校配信メール（110回）により、保護者等への情報発信（保ア⑫89%）に努めている。	＜地域保護者連携＞ ・地域との協働がすすんでいると実態からも伺える。 ・暴力発生件数と入学率の変化が、すごく良くわかる。 ・新聞などマスコミを活用して、良い部分がたくさん表に出て、周りのイメージが変わってきている。
自己評価	【強み（成果）】 ・生徒との関係が、監視から寄り添う関係になり、良好になった。 ・電話連絡や家庭訪問を増やすなどの努力により、保護者と良好な関係を持った。 ・コミュニティ・スクールの取り組みが充実し成果があった。また、地域との協力関係もできている。	【弱み（課題）】 ・指導の方向性が共有できておらず、また統一もできていない。そのため、クラスの状態にばらつきがでてしまっている。 ・学力が伸びていない。家庭学習が定着していない。学習規律（コツコツ取り組む、集中する）が確立されていない。コミュニケーション能力が低い。考えさせる授業が不足している。 ・交通ルール、交通マナー、防災教育の指導が不十分である。	【改善策】 ・学校全体で統一した指導を進めていくため、生徒を見守る意識や保護者との関係づくりなどについて研修を深める。 ・学習習慣を身につけさせるため、宿題やノート、授業規律について細やかな指導を行い、適切な評価をする。 ・グループ活動での学びあいにより、コミュニケーション能力や考える力などを身につけさせ、学力向上を図る。	